

4 東京都学童保育連絡協議会

【日時】平成28年8月5日(金) 19:30~20:40

【場所】東京都学童保育連絡協議会事務所(東京都豊島区北大塚)

【取材先】

東京都学童保育連絡協議会

会長 須田愛子氏(元目黒区児童の保護者)

副会長 高橋 誠氏(現役の文京区学童保育指導員)

【主なご意見など】

◆都内23区の状況は時々刻々と変化している

特に現在は、文部科学省の実施する「放課後子供教室(以下、①)」と厚生労働省が実施する「放課後児童クラブ(以下、②)」の両事業の総称である「放課後子ども総合プラン」のあり方が課題の一つとして挙げられる。

⇒①②を「一体的」に行っている自治体もあれば、両者をそれぞれ別事業と位置づけている自治体もあり、混在を極めている。

⇒①の場において、地球温暖化防止活動推進員等が単発で取組みを実施するという形が現実的だと思う。確かに学童保育での固定メンバーが取組み実践したほうが学びにつながるかもしれないが、子どもとの関係でどういふものをどのタイミングで行うかは悩みどころである。

⇒「授業が終わって帰ってきたところでようやくホッと一息つける時間」が少なくなってしまう、遊び(生活)の時間がなくなってしまう。

◆取組み、導入の展開について

公設公営の場合、区に依頼する必要がある。また、委託の場合、受託者に依頼する必要がある(ともに現場のみで判断はできないため)。

◆プログラム導入について

上記の通り、公設学童保育で取組みを導入することは難しいとは思いますが、例えば、2週間に一度ニュースレターを発行して、それをもとに、現場でやってみる等の軽い取組みであればできるのかもしれない。

